

新図書検索ナビゲーションシステム開発研究

当館では「本の海大冒険」(子ども向け図書検索システム)を公開しておりますが、より優れた読書活動支援システムの開発を促進し、さらに多くの子どもが本に親しむ機会を創出するため、一層効果的なシステムの研究開発を行うことといたしました。

「本の海大冒険」の成果と課題をふまへ、学校および公共図書館の所蔵検索とのリンク対応、物語キーワード体系表の低学年向けの構築、対話式ナビゲーションシステムの新規開発、子どもの読後感情を活用した検索システムの開発などを骨子としています。成果の一端は、9月以降にインターネットで公開するほか、感性工学会で発表します。

(この研究は、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、富士通東北システムズとの共同研究です。)

特別研究員制度

外部の研究者との新たなネットワークを築くとともに、当館の資料のより有効な活用を図るため、国内で実績ある研究者の方を特別研究員として招聘しました。資料研究を促進・支援しながら、その成果を展示の企画運営、講演会の開催、紀要への論文掲載等、館の事業へ還元していただく制度です。05年度は試行的に3名の方にお願ひしました。

◆佐藤宗子(テーマ「児童文学における翻訳・再話の研究」/還元06年5月〜7月「フランダースの犬」展の企画運営)

◆宮本大人(テーマ「昭和戦前・戦中期から戦後占領期にかけての子ども向け物語漫画の研究」/還元07年度「講談社の絵本の漫画」展予定)

◆香曾我部秀幸(テーマ「大正期の絵本・雑誌における視覚表現の変遷」/還元06年11月〜07年1月「明治・大正期の歴史英雄画像の変遷」展予定)

出版物

◆紀要『国際児童文学館紀要第19号』

(2006年3月発行)
紀要第19号では、第10回国際グリム賞の受賞者、マリア・ニコラエヴァ博士の記念講演録のほか、当館職員の研究論文などを掲載しています。

- ・遠藤純 『少年』時事新報社(細目(一))
- ・窪田美鈴 『松谷みよ子あかちゃんの本』シリーズの絵本表現
- ・窪田美鈴 『インタビュ』松谷みよ子あかちゃんの本」シリーズの絵本表現
- ・窪田美鈴 『インタビュ』松谷みよ子あかちゃんの生みの親松谷みよ子氏に聞く制作の舞台裏
- ・土居安子 「大阪国際児童文学館における物語体験の可能性(1)」
- ・福本由紀子 「Page reader」物語シリーズにおける「子ども部屋」空間の広がり
- ・マリア・ニコラエヴァ 「児童文学における『力』誰のために? 何のために?」

◆論文集『韓国語の絵本』(2006年3月31日発行/編集長 三宅興子)
韓国語・英語・日本語の三カ国語による、韓国語の絵本に関する論文集と、シンポジウム「韓国と日本の絵本」報告集の2本立てで構成しています。(韓国と日本の絵本の項参照)

明治期主要児童雑誌の研究

当館で所蔵する貴重な児童雑誌を研究するため、館員の他に、館外の研究者の協力を得てプロジェクトを立ち上げました。今年度は、明治期の主要児童誌である「少年世界」の研究に着手し、研究と同時に、児童文学研究の活性化を目的として、内容目次データベースを作成公開することにしました。

これらの活動を行うために、2006年度の科学研究費補助金を申請しました。
共同研究者 山山兆子(梅花女子大学) / 藤本芳則(大谷大学短期大学部) / 酒井晶代(愛知淑徳大学) / 目黒強(神戸大学)

韓国と日本の絵本

「韓国と日本の絵本」をテーマにした四つの企画を行いました。

- ①シンポジウム「韓国と日本の絵本」の開催
(写真)
日時 3月12日(日)
講師 田島征三氏(日本絵本作家)
田島征三氏(日本絵本作家)
コーディネーター 大竹聖美氏(東京純心女子大学助教授)

現代のそれぞれの国を代表する絵本作家が、自作について語り合うことにより、韓国、及び日本の絵本の魅力を知り、「子ども」や「絵本」についても考える機会となりました。

(参加者 12名)
また、このシンポジウムに先立って、それぞれの作家の絵本についての研究会が1月29日に行われました。



②論文集+報告集の作成
「絵本」や「韓国」に対する理解を深めると同時に、同分野の研究促進を目指し、「韓国と絵本」というテーマで編集した論文(8本)およびシンポジウム報告集「韓国と日本の絵本」を、日本語・英語・韓国語の3カ国語で出版しました。

③韓国絵本の展示・貸出用絵本セット作成
韓国絵本の魅力を伝えるため、いくつかのテーマに沿った韓国絵本60冊余りを選出

し、解説と共に展示しました。貸出絵本セットとして、学校、公共図書館、ボランティア団体等に無料で貸し出します。
展示企画 金永順(梅花女子大学大学院博士課程)/展示リスト「韓国絵本の今」

④子ども向きおはなし会等の開催
子ども向きには、当館ボランティア人形劇グループ「パレット」が韓国の昔話「トラと笛吹き」を上演(12月)、また韓国をテーマにしたおはなし会も開催しました(3月)。

これらの事業は、関西の企業の協賛と(財)日韓文化交流基金の助成をいただきました。

キワニス文庫

大阪キワニスクラブより、世界各国の子ども本の購入費として、50万円の寄付をいただきました。これまでも、昭和57年から平成6年までの13年間にわたり、毎年50万円の寄付をいただき、主にアジアの国々の子ども本を中心に一万二〇〇〇点以上の図書・雑誌を閲覧室及び書庫に所蔵しています。今年度からは、「キワニス文庫」というコーナーを子ども室に設置し、どなたでも自由に読んでいただけるだけでなく、貸出し可能な図書を置いています。



2005年度は、アジア(タイ、韓国、台湾)の絵本一三二冊(日本向き要約または全訳を添付)、英米の主要な児童文学賞を受賞した作品を64冊購入して開架、貸出しています。

また、子ども読書の日記念「おはなしのバスケット」アジアのおはなし(4月26日)では、留学生のアヌボン・ポンサワットさんをお招きして、タイの絵本『白い猿のハヌマーン大将、都ロンカーを燃やす』をタイ語で読んでいただきました(写真)。